

「急変時の対応」が特に必要な患者・利用者のイメージについて

1 現行の救急医療体制と患者・利用者イメージ

分 類	対 応	主な結果
急性期		
重症（生命に危険が及ぶ患者）	三次救急 （救命救急センターなど）	入院
重症	二次救急	入院
軽症・中等症	初期救急・二次救急	入院または 帰宅
軽症	初期救急 （夜間急病センターなど）	帰宅

2 患者・利用者イメージに関する視点

- ・ 軽症には、症状の軽重に幅があり、二次・三次救急医療機関においては、重症でない患者は、入院の判断にならない。
- ・ 入院の判断にならず帰宅となるケースに関する介護サイドへのプレッシャーの存在。

3 今後の方向性

- ・ 軽症・中等症の在宅や施設の高齢患者に係る、状況に応じたスムーズな入院受け入れ体制の構築
- ・ これまで救急医療機関で「帰宅」と判断されていた救急患者について、帰宅後に急変するケースの発生を可能な限り避けるため、「入院し経過観察する」というような幅を広げた判断も可能となるような仕組み作り